

令和5年度 県立盲学校 自己評価表

目指す学校像	◆幼児児童生徒が毎日通うのを楽しみだと思える学校 ◆教職員が誇りと自信、やりがいをもって勤務できる学校 ◆保護者が子供を安心して通わせたいと信頼される学校			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標		達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・校内の消毒等の感染対策の継続と、校内及び敷地内の環境整備に努めたことで、安心・安全な教育環境のもと教育活動を進めることができた。 ・感染対策を講じながら、昨年以上に校内外での交流や体験活動を実施することができた。 ・寄宿舎内外の環境整備と感染症対策を徹底したことで感染拡大を抑止することができた。 ・毎月の登校指導や年3回の駅の巡回指導により、自力通学生の通学時の安全を確保することができた。 ・より安心・安全な教育環境を整えるため、備品や過去の作品の整理及び廃棄、教材や教室の管理方法の整理を行う必要がある。 	① 安全・安心な教育環境の徹底	幼稚部	・幼児が安心して活動できるよう、幼稚部内の環境整備に努め、安全な保育を心掛けるとともに、安心して登校できるよう保護者との連携を密に行う。	A
		小学部	・児童が安心して学校生活を送れるよう、児童の実態に応じた教室環境・学習環境の整備に努めるとともに、常日頃より、継続的に健康、安全、防災教育を進める。	B
		中学部	・生徒が安心して有意義な学校生活を送ることができるよう、挨拶や温かい言葉をとおして、認め、励まし合う人間関係づくりと安心して学び合える環境づくりに努めるとともに、日頃から健康や安全に関する指導や防災教育を推進する。	B
		高等部	・一人一人が安心して学習に取り組めるよう、生徒自ら意識して清潔で安全な学習環境を整えようとする態度を育成するとともに、生徒が互いを尊重し、共に課題を解決しながら判断力や行動力を身に付けられるよう、対話的で共感的な関わりを推進する。	B
		寄宿舎	・舎生一人一人が安心して安全な寄宿舎生活を送れるよう、生活環境と学習環境の整備に努める。	B
<ul style="list-style-type: none"> ・各部間の指導についての情報共有やケース会の実施により、授業改善を図ることができた。 ・ICT機器を活用した授業実践が増え、効果的な指導、生徒主体の授業実践ができた。 ・基礎学力の定着、向上のための自主的学習態度の育成と家庭学習の習慣化に向けた取り組みの検討が必要である。 ・教科会や各部研修等で児童生徒の語彙力や表現力を高める指導の在り方や、見えにくさや生活経験不足による情報を補う効果的な教材と指導方法について更に研修を進めていく。 ・点字指導や歩行指導についての研修を継続し、教員の指導技術を高めることが課題である。 	② 個に応じた学びの充実	幼稚部	・幼児個々の特性に配慮した保育計画を作成し、発達段階に応じた教材・教具の工夫に努めるとともに、適時に指導方法の見直し等を行い、更なる授業改善を図る。	B
		小学部	・児童個々の障害の程度や特性に配慮した指導計画を作成し、教材、教具、体験的な活動の工夫及びICT機器を積極的に活用しながら効果的な指導に努める。	B
		中学部	・個別の指導計画に基づいた合理的配慮による指導の展開と、一人一人が学習課題をもち、ICTを効果的に活用しながら「分かった」「できた」と実感ができる生徒主体の体験的な授業実践に努める。	B
		高等部	・生徒一人一人の障害の状態や学びの特性に配慮しながら必要な指導課題を考え、主体的に課題を解決していけるようICT機器を活用しながら、目標を明確にした授業づくりに努める。	B
		寄宿舎	・日々の生活支援の情報交換をもとに、課題を共有し、舎生一人一人の実態に応じた生活支援の充実に努める。	B
<ul style="list-style-type: none"> ・生活アンケートや定期的な面談等で児童生徒の状況把握に努めたことで、いじめやスマホトラブルに対して担任等と協力して迅速に対応することができた。 ・寄宿舎指導員連絡会に各部主事にも出席してもらえたことで、密に情報交換ができ、連携 	③ 豊かな心と健やかな体の育成	幼稚部	・本物に触れて感動したり、他者と関わる楽しさを味わったりする体験的な活動をとおして、心身の成長を育む。	B
		小学部	・集団活動や交流活動等での他者とのかかわりをとおして、発達段階に応じた自己理解、他者理解を促し、協調性や社会性の向上及び望ましい道徳心、協働する態度を育成する。	B

<ul style="list-style-type: none"> して指導支援にあたることができた。 他校の友達との交流を取り入れる等、相手を意識したコミュニケーションの機会を検討する必要がある。 寄宿舎において、ADL室を活用した一人暮らしを見据えての段階的な体験の計画と実施が課題である。 		中学部 <ul style="list-style-type: none"> 小さな変化やサインを見逃さない日常的・定期的な情報収集と情報共有による実態把握に努めるとともに、他者との対話や関わりの中で自他の違いや良さを認め、よりよく生きるための基盤となる道徳性を育めるような対話的な活動や体験学習、交流活動を推進する。 	B
		高等部 <ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態や課題に関する情報交換を積極的に行うとともに、合意形成や意思決定を図る活動を教師が意図的に展開することで、所属感や連帯感を高め健全な人生観と将来に対する希望をもたせられるようにする。 	B
		寄宿舎 <ul style="list-style-type: none"> 異年齢の集団生活の中でお互いを認め合いながら、他者の意見を聞き、自分の考えを伝える力を育む。 	C
<ul style="list-style-type: none"> 各部において、キャリアパスポートの計画的な活用と内容の検討を進めることができた。 感染症対策を講じた上で、進路講演会や進路懇談会を対面で開催することができた。 コロナ感染症の影響で実施できなかった実習があったものの、現場実習、理療実習、見学等は、ほぼ予定通り実施することができた。 キャリアパスポートについては、各部で検討したことを情報共有しながら、更なる効果的な活用方法について検討を進めていく。 寄宿舎では、スキルチェック表の活用と、サポートプログラムの改善が課題である。 	④ キャリア教育の推進	幼稚部 <ul style="list-style-type: none"> 様々な感覚を活用して環境の把握ができるよう、保育環境を構成することで幼児が主体的に事物に関わろうとする態度を育て、自立のための基礎的能力を高める。 	B
		小学部 <ul style="list-style-type: none"> 学年や個々の発達段階に応じた基本的な生活及び学習習慣が身に付くよう、キャリアパスポートの活用及び家庭との連携を図りながら、自主的、主体的に行動できる態度を育成する。 	B
		中学部 <ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポートを活用することで自己理解につなげるとともに、問題を解決する場面等を意図的に設定することで生徒一人一人が主体的に課題解決に取り組み、進路の実現や社会参加に対する意欲と自立のための基礎を培う。 	A
		高等部 <ul style="list-style-type: none"> 普通科では、自己理解や進路の実現に向けて見通しをもって取り組めるようキャリア形成のための体験学習や課題解決型の学習に積極的に取り組む。 理療科では、校内外の臨床実習の充実にも努め、施術者としての知識・技能の向上を図るとともに、健全な職業生活を営む能力と自信を育む。 	B
		寄宿舎 <ul style="list-style-type: none"> サポートプログラムを活用し、自立のための生活スキルの向上を目指す。 	C
<ul style="list-style-type: none"> 医療機関との連携による視機能評価研修を実施したことで、専門性が高まった。 関係機関への訪問により、盲学校が早期教育等の相談窓口であることを周知することができた。 効率的な広報活動の方法の検討と他部署との役割分担が課題である。 	⑤ 地域に開かれた学校とセンター的機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> 巡回相談により、地域の小中学校等に在籍する見えにくさのある児童生徒に対する具体的な支援について助言する。 他部署と連携し関係機関訪問をしたり、医療・福祉等と連携した研修会を企画したりすることにより、関係機関との連携を深める。 R6年度コミュニティ・スクール導入に向け、先進校を視察する等の情報収集を行う。 	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 「触れる・読む・書く」を踏まえた指導方法の検討を通じて、指導力の向上を図る。 児童生徒の読解力と語彙力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「触れる・読む・書く」に焦点を当てて、各部間の情報交換を行うとともに、読速度の向上を意識した指導の在り方について研修を深める。 	②	B	<ul style="list-style-type: none"> ○点字指導について、各部の指導事例をもとに活発な情報交換を行うことができた。 ●生徒の語彙力・表現力を高める指導のあり方について研修を深める。 ◇情報交換で共通理解できた内容について、更に深めていく方策を話し合う。
		<ul style="list-style-type: none"> 学習へのモチベーションを高めるために、各種コンクールへの作品応募を促したり、中学部高等部合同の授業による作品発表会を行ったりする。 読解力・語彙力を高めるための指導方法について各部の情報交換を行う。 	②	B	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 中学部重複Ⅱ課程の社会科について、系統性を意識した計画を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの中学部重複Ⅱ課程の学習内容を整理する。 高等部重複Ⅱ・Ⅲ課程社会科の計画との系統性を検証する。 	②	C	<ul style="list-style-type: none"> ●中学部Ⅱ課程の学習内容の整理はしたが、高等部との系統性についての検証は不十分だった。 ◇計画を作成する際、学習指導要領の内容に沿っ

	<ul style="list-style-type: none"> ・触れる・読む・書くを通して学びを深める取り組みをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に関わるものに直接触れる、制度などに模擬的に、または直接に体験できるような取り組みをし、教員間で情報共有する。 ・グラフや表などの意味するところを読み取って、学習内容をより理解できるような取り組みをし、教員間で情報共有する。 	②③④	B	<ul style="list-style-type: none"> ているか確認する。系統性について、前年度末に教科会内でチェックする。 ○教科会等で情報共有を行うことができた。授業でグラフや表の読み取りを意識的に扱った。 ●情報共有はできたが、共同で学びを深める取り組みができたかは不確定。 ◇グラフの読み取り方の指導について、研修する。
算数数学	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態や進路に応じて、必要と思われる知識や技能を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習グループの編成や学習内容の精選を柔軟に行う。 	②	B	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の実態を共有することで実態に応じた指導を行うことができた。 ●話し合い活動や体験活動について。 ◇合同授業等の時間を設けて話し合いや体験ができる場を設ける。
	<ul style="list-style-type: none"> ・触れる・読む・書くを通して学んだ内容を様々な生活場面において活用しようとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的ニュースや身の回りの出来事から多様に題材を取り上げ、話し合いや体験学習を行う。 	②③④	B	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じた、触れる教材教具の工夫と系統性のある指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各部間で連携しながら、積極的に授業協力をする。 ・触れる教材教具の作成と研修を行う。 	②	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各部間で連携しながら触れる教材教具の作成・研修を行い授業で効果的に活用することができた。 ○壊れた備品は廃棄し、教材教具の整理を適切に行うことができた。 ●◇引き続き触れる・聞く教材教具を工夫し児童生徒のイメージや経験を増やすことができるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・理科室、薬品庫の整理、廃棄を適切に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業等を利用しながら、定期的に備品、薬品の整理、廃棄を行う。 ・備品や消耗品の確認を行い、計画的に購入していく。 	①	A	
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の主体的・協働的な学びの実現に向けた授業改善を行い、実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒自ら自分の課題に気付くことができるよう、ICTを活用したり、達成するための練習方法などを考えられる場面を意図的に取り入れたりする。 	①②③④	B	<ul style="list-style-type: none"> ○弱視生(児)を中心にタブレット端末を活用した学習を展開し、協働的な活動や技能の向上につながった。 ○体育専科外の授業担当者に視覚障害者スポーツの紹介及び支援法を随時行った。 ◇他会議との調整を行い、全職員対象の体育・スポーツ研修会を設定する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害者スポーツ・運動に関する専門性の向上及び継承に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校職員を対象に視覚障害者スポーツに関する研修会(陸上競技及び球技等)を開催し、競技の特性や指導・支援法について周知し合う。 	②④	C	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の障害、発達段階に対応できる音楽教育環境を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器や教具、教室環境の管理と維持整備を行う。 ・音楽における「触れる・読む・書く」などの指導内容を検討し教科指導を通じた授業改善を行う。 ・点字楽譜研修会を通して他校と情報交換をしたり、課題解決に向けた研修を深めたりする。 	①②④	B	<ul style="list-style-type: none"> ○研究テーマに関連づけた授業を実施した。 ○点字楽譜研修会で、点字教科書の内容確認や表記について学んだり、他校の様子について情報交換をしたりすることができた。 ○中・高等部重複教育課程は昨年度との系統性をもった年間指導計画を作成した。 ●◇年計指導計画の作成は、昨年度、今年度を踏まえ、系統性をもった作成をする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・重複教育課程の年間指導計画の系統性を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の系統性を踏まえ、次年度以降を見通した単元、題材を設定するようにする。 	②④	B	
図工美術	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の年齢や実態に応じて身につけさせたい意識や技能を明確にし、環境や題材、手立ての設定を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な素材に触れる意欲や好奇心の育み方、触察や道具使用の技術の身につけ方、発想や表現の豊かさをどのように育てるかを年齢発達段階に合わせて検討し、教科指導に生かす。 	②	B	<ul style="list-style-type: none"> ○年度初めに年齢に応じて身につけたい力について検討し、各部の授業や制作方法、材料の工夫について、定期的に情報交換し、授業づくりに活かすことができた。 ●◇来年度は関視研の主幹であり、鑑賞活動をテーマにするため、鑑賞活動について研修し意見をまとめていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・研修により、表現・制作活動に有効な素材や指導法について見識を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科会での情報交換の他、必要に応じて研修や互いの授業を見学を行い、意見交換をする。 	④	B	
外国語(英語)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開を行い、意見交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1回授業公開を実施し、互いの授業を見合い、指導内容やよりよい指導方法について話し合う機会を設ける。 	②	C	<ul style="list-style-type: none"> ○教科内で研修を実施し、専門性を高めることができた。 ●1人1回の授業公開は、時間の確保ができず実施できなかったが、校内公開授業を通して高等
	<ul style="list-style-type: none"> ・研修により教科の専門性を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部ごとに1回(年2回)教科内で研修を計画して実施する。 	②	A	

	<ul style="list-style-type: none"> 教材のデータベース化を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に、授業で活用している教材や各部で実施しているテスト等、情報交換をする。 	②	B	<ul style="list-style-type: none"> 部と小学部の授業をお互いに見合うことができた。 ◇各部での教材や指導法に関する情報交換を定期的に行い、1人1回授業公開を行うことで英語指導に関する情報共有と指導法の向上を目指す。 	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の段階や実態に合わせた、実生活に生かせる知識や技術の習得を促す指導ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して、情報交換や相互参観を行い、児童生徒の実態把握をし、課題の達成度合いを確認し、その後の指導に生かす。 見えにくさや生活経験不足をカバーするために有効な教材教具の選定や作成、指導方法の研修に努める。 	②③	C	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の実態に応じて、学んだ知識や技術を活用する具体的な場面を設定し授業を展開したため、学習意欲が高まり実習や演習に意欲的に取り組む姿が見られた。 ○「触れる」教材やタブレット端末で見やすさを調整できるワークシートを準備し、理解を促すことができた。 ○教室内の整理整頓、備品の確認ができた。刃物や針等の管理を徹底でき、被服室や調理室を使用する先生方にも共通理解を図ることができた。 ●相互参観の機会をどの学部とももち、より具体的な児童生徒の実態把握に努める。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が安全・安心に学習できるように、被服室及び調理室の環境を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 室内及び備品・消耗品の適切な管理、整理、廃棄を行う。 児童生徒の担任の先生方と情報交換を適宜行い、安心して学習できているか等を確認、検討、改善する。 	①	B		
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 月テーマと関連づけた道徳の授業実践の方法について研修する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各部の取り組みについて授業参観や情報交換を行い、教材研究をする。 月テーマと児童生徒の実態、他の教科領域との関連性について検討する。 	②④	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○月テーマと関連させた授業実践について情報交換をすることができた。 ●◇月テーマについては、児童生徒の発達の段階や各学部の実態により即したのみに見直していく。
自立活動	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動に関する研修や情報交換を行い、具体的な支援の方法について学ぶことができる。 専門家からの指導助言を受けて、自立活動の指導に生かし、各部内で情報を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修の内容について希望を出し合い、その中からテーマを設定して、課題や意見を出し合いながら、身になる充実した研修となるようにする。 	②	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○読速度の計測の仕方について研修を実施し、小・中・高等部普通科で読速度を計測し、一覧表にまとめた。 ●年間を通してバランスよく研修時間を取れると良かった。 ●専門家からの指導助言の情報共有の仕方に工夫が必要だった。
		<ul style="list-style-type: none"> セラピスト等学校訪問事業と歩行訓練士派遣について、助言を受けた内容や自立活動の授業の経過等をまとめ、部内で回覧したり、部会等で報告したりする。 	②⑤	C		
総合	<ul style="list-style-type: none"> 学び方や調べ方の基礎を育てる指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> インターネット、タブレット端末、電話、本等、児童生徒の障害特性にあった学習ツールの活用方法について情報を共有する。 	②③	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレット端末を中心にICT機器の活用が進み、児童生徒にとって学習しやすい環境が整ってきた。 ○生活に即した課題や行事と連動した題材を多く設定し、より主体的な活動を促すことができた。
	<ul style="list-style-type: none"> 自己の生き方を考えることができるような探究活動や体験活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 職場見学や体験活動・交流活動を積極的に取り入れ、主体的な参加ができる活動を計画する。 各部相互に情報を交換し、学年、学部間の系統性や他教科との関連性について検討する。 	②③④	B		
重複	<ul style="list-style-type: none"> 担当者会での情報交換を密に行い、児童生徒一人一人の課題や改善策を共有する。 進路情報、校内外の進路指導情報、研修情報など有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「触れる・読む・書く」やその他の課題について、毎回テーマを設定して情報共有する。 各部の授業の取り組みについて、授業見学や意見交換を行う。 	②③	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○毎回幼児児童生徒の課題、「触れる・読む・書く」の指導、や進路指導の状況などテーマを決めて情報交換することができた。 ○8月には進路指導主事を招いて進路についての研修会を行った。 ●◇進路への積極的な意識を保護者へ浸透させるには、職場体験や現場実習、進路決定等の情報を学部を超えて常に共有し、保護者へ発信していく必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> 卒業生の進路先や保護者・生徒への進路指導の在り方やタイミングなどについて意見交換や情報共有する。 	④	B		
理療	<ul style="list-style-type: none"> 研修グループを構成し、指導内容についての理解を深め、生徒にとっての「わかる授業」を実践する。 学習に困難さのある生徒への支 	<ul style="list-style-type: none"> 「基礎医学」「臨床医学」「東洋医学」の3つのグループを構成し、教材研究、効果的な教材の活用、授業づくり等に関する情報交換を通して研修する。 困難さを抱える生徒の情報を収集し、支援部と連携し研修を実施する。 	②	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○研究授業の実施により、生徒がICTを活用しながら主体的に取り組める授業づくりについて研修することができた。 ●多様化する生徒の実態や少人数化により更なる実態把握・工夫を必要とする。

	<p>援、指導法を研修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代社会のニーズに対応できる施術者の育成をめざし、生徒が課題を自覚し解決していく力が身に付くよう授業を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実態把握に努め、生徒一人一人の課題を明確にし、授業を展開する。 生徒が課題を意識し、主体的に授業に参加できるよう、研究授業などを通して研修する。 	③④	B	
教 務	<ul style="list-style-type: none"> 各部門、校務分掌部門の連携・調整を適切に図り、幼児児童生徒が安心して生活できる安全な教育環境を保持し、円滑な教育活動の運営をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の職員会議後に幼児児童生徒の状況において情報共有する機会を設定し、指導体制等の再確認を行い、安心・安全な教育環境づくりに努める。 実態に応じて、効果的な場面でICTを活用したり、情報リテラシー教育をしたりできるように、教員の知識・技能の向上のための支援をする。 各部門、校務分掌間の連絡・調整を迅速に行うため、積極的にGoogle クラウドを活用する。 	①②③	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議後に「こども理解連絡会」をもつことで、全教職員が幼児児童生徒の指導上の配慮等について共通理解を図りながら日々の指導支援にあたることができた。 ◇校務支援システムの運用に関して計画的に進めることができなかった。R6年度の運用に向けて、引き続き情報係と連携してマニュアル作成やシステム運用に向けた研修会等を実施していく。 ○ニーズを把握した上で専門性研修の計画・運営を行うことができた。 ●◇集合研修、オンライン研修ハイブリッド方式での研修等、自分に合ったスタイルで研修に参加できるような研修方法を模索していく。
	<ul style="list-style-type: none"> 表簿作成等の業務の効率化と図るため、統合型校務支援システムの運用を段階的に進める。 業務の見直しと削減による働き方改革の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 小1・小4・中1・高1の統合型校務支援システムの運用に向け、7月末までに基本情報入力を完了させる。 夏季休業中に、小1・小4・中1・高1の担任に対して具体的な操作方法等の説明を行い、年度末までに運用を促す。 会議・委員会の廃止・統合など業務の効率化を進めるとともにワークバランスを意識した働き方ができるように、コンプライアンス意識に基づいた業務の見直しをする。 	①	C	
	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修の充実に努め、実践的指導力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> スキルアップ研修や専門性研修の企画・運営を行い、専門性の向上を図る。 人権教育等についての教職員研修会を充実させる。 	①②	B	
	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ・スクール導入に向けた情報収集と導入準備を計画的に進める 	<ul style="list-style-type: none"> 校内推進委員会を設置し、本校の特性や地域の実情、抱えている課題等を踏まえた上で、本校のコミュニティ・スクールとしての方向性を検討する。 教職員、保護者、学校評議員、地域住民等へ説明し、コミュニティ・スクール導入に対する理解を求めるとともに、熟議をして地域等との連携を深める。 	⑤	A	
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 県内統一様式の個別の指導計画の活用や校内教育活動の充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 県統一の個別の指導計画を活用し、目標設定や手立ての記入の改善を行う。 各種様式作成の年間スケジュールや月の予定を掲示し、取りまとめする。 教材室を整理し、教材の所在や活用方法について情報を共有する。 	②③	C	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の指導計画を運用開始し目標設定や手立てについて、都度議論を重ねて形にしてきている。 ○月スケジュールや教材教具の整理を適切に行うことができた。 ●個別の指導計画について校内で手立ての記入方法などの基礎資料としてまとめることがまだできていない。 ◇個別の指導計画について、校内統一の方向性を管理職含めて検討し、まとめる。次年度以降、継続検討課題とし、適宜修正を実施していく。 ○「触れる・読む・書く」をキーワードに各部各教科会等で目標を定めて取り組むことができた。 ○外部講師を招聘した研修会や各部の話し合いを通じて、授業改善に向けての意識を高めることができた。 ●各部、各教科会等で「触れる・読む・書く」という方法を共有し目標を定めたものの、それぞれの教育目標の進捗状況、達成状況の共有は十
	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究を充実させるとともに視覚障害教育の専門性向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 各部、各教科会を中心にカリキュラム・マネジメントを実践する。 校内研究の成果を教職員間で共有する。 専門家を招聘した研修会の計画と他校の研究紀要の回覧を行う。 	②	A	

						分ではなかった。 ◇授業改善をさらに推進するため、3観点を意識した授業目標に基づく指導、指導と評価の一体化等をどのように指導略案に加えるか、その表現方法の在り方について検討する必要がある。
生徒指導	・通学指導を充実させ、登下校時の安全確保に努める。	・本校付近や水戸駅、赤塚駅での通学指導、通学路の安全確認の充実を図り、登下校の安全対策強化に努める。	①	A	A	○児童生徒が安心安全に学校生活を送ることができるよう、活動することができた。 ●いじめ問題に関する意識の共有が不十分であった。 ◇研修等を行い、継続して意識の共有を図っていく。
	・情報モラルの向上、いじめ防止の取組の推進を図り、いじめ、問題行動、事故等の未然防止に努める。	・スマホ家庭のルール作り運動、スクールカウンセラーの派遣、情報モラル教室、生活チェックリスト・アンケートの実施、いじめ防止対策委員会を行うとともに、教員同士の情報共有を密に行うことで、情報モラルの向上、いじめ、問題行動、事故等の未然防止に努める。	①	A		
	・特別活動（生徒会活動、委員会活動）や部活動の充実を図る。	・対面とオンライン双方のメリットを活かしつつ、児童生徒の自主的な活動を促す。そのために、特別活動係で話し合う機会を多く設定する。 部活動については限られた活動時間でどれだけ質の高い活動ができるか工夫していく。	③	A		
保健安全	・幼児児童生徒の実態を把握し、健康管理、保健指導の充実を図る。	・身体測定や健康診断の結果を基に、学級担任・寄宿舎指導員との連携を密にとりながら、幼児児童生徒一人一人の健康管理に努める。	①	B	B	○健診結果等を基に、関係職員と連携を図りながら幼児児童生徒の健康管理を行うことができた。 ○幼児児童生徒への給食週間アンケートが実施でき、毎月給食だよりを作成できた。 ○公開防災訓練の見直しを図った。 ○安全点検では、急を要する場合に技術員さんにすぐ対応していただいた。 ●校舎の工事等のため、除草の場所がわからなくなっている。各部の担当個所の再確認が必要。 ●グラウンドの除草作業が課題。職員清掃作業の実施の有無を明確にする。
	・学校教育における食育の充実を図る。	・栄養職員を中心とした、各部学年の実態に応じた食に関する指導を推進し、食に関する指導の実践に努める。	②④	B		
	・防災に関する避難訓練を通して、個々の防災に対する対応能力を高めるとともに適切な避難方法を判断する力を高める	・避難訓練や安全点検を計画的に実施し、幼児児童生徒及び保護者、教職員の防災に対する理解及び意識の向上を図る。	①④	B		
	・校内の安全のための環境整備と環境美化に努める。	・各学部と連携し、安全点検、花壇等の管理、全校清掃活動を計画的に実施する。	①④	B		
進路指導	・生徒や保護者のニーズに応じた適切な情報提供に努める。	・進路だよりや保護者会等で、あはき業や一般就労、福祉的就労、福祉サービス、進学等に関する情報提供を行う。	④	B	B	○進路講演会を対面で実施し、進路に関する情報提供ができた。 ●実習先や進路先の開拓が必要。 ◇必要に応じて保護者面談で進路について説明をする機会を設ける。
	・企業や福祉施設等に向けて視覚障害教育の理解啓発を行う。	・就労体験や職場見学、現場実習等で実習先に視覚障害教育に関する情報提供を行うことで視覚障害教育への理解を促す。	④⑤	B		
渉外	・保護者や地域社会が学校への理解と関心を高め、学校と連携して幼児・児童・生徒を育てようとする体制づくりを行う。	・保護者からアンケート等でPTA活動に関する意見を募り、意見を反映させて活動計画を立てることで、活動への意欲につなげる。 ・負担なく活動できるように行事や運営委員会等のPTA活動の在り方を検討し、精選を行う。 ・ICTを活用し、効率的な運営を行う。 ・地域社会との連携について、各部の現況を把握する。	⑤	A	A	○今年度の活動回数・方法についてのアンケートで妥当であると回答した保護者の割合が高かった。 ●次年度から導入されるコミュニティ・スクールについての保護者への理解啓発が課題。 ◇運営委員会やPTAだよりで情報発信をする。
視覚障害教育支援センター	・視覚障害教育について、効率的な広報活動を検討する。	・理療科の係と連携し、広報活動を行う関係機関を決定し、合同で訪問する。 ・3年以上前の訪問先を洗い出し、電話やメール、訪問等による広報活動を行う。	⑤	A	B	○関係機関の訪問により、盲学校が早期教育等の相談窓口であることを周知できた。 ●地域巡回相談会の開催方法（予約の有無）について検討が必要。

	<ul style="list-style-type: none"> 見え方に困り感のある児童生徒や地域の方々の支援の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域巡回教育相談会（県北・県南）、ロービジョン機器相談会を通して、視覚障害に関わる専門的な相談・支援や情報提供を行う。 巡回相談を通して、視覚障害の特性や配慮、学習・生活環境の整え方について助言する。 視力や視知覚機能などについて適切な実態把握を行い、個に応じた支援を行う。 専門家を招聘した研修会により、視覚障害についての専門性を高める。 	①②⑤	B	◇他部署と連携し、訪問場所を精選し広報活動を効率的に行う。
寄宿舎	<ul style="list-style-type: none"> 生活を基盤とした配慮の徹底と協同の指導を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の生活支援の情報交換をもとに課題を共有し、舎生一人一人の実態に応じた生活支援を行う。 	①	B	<ul style="list-style-type: none"> ○勤務体制の大幅な変更に伴い情報共有や課題の解決を図れた。 ○寮の枠を越えた協力体制を構築しつつある。 ●新体制の運営には、職員のさらなる意識改革が必要である。 ◇生徒の多様な実態に合った支援を継続していく必要がある。 ○話し合いを通して、思いやりやルール・マナーへの意識を高めることができた。 ○指導員連絡会への部主事の同席により、連携した支援ができた。 ○舎生の自立に向け、調理実習や買い物を実施することができた。 ○養護助教諭と緊密に連携し、服薬に関する体制を整備できた。
	<ul style="list-style-type: none"> 舎での行事等を通して、豊かな生活経験を重ね、将来の自立に向けての一助となる力の醸成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢の集団生活の中でお互いを認め合いながら、他者の意見を聞き自分の考えを伝える力を育む。 	③	C	
	<ul style="list-style-type: none"> 寄宿舎生に明るく活気ある日常生活を保障する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校、保護者との連携を密にする。 	①	C	
	<ul style="list-style-type: none"> 安全、健康に留意した生活を送れるよう環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立のための生活スキルを向上させるため、サポートプログラムを活用できるように整備する。 	③④	C	
	<ul style="list-style-type: none"> 安全、健康に留意した生活を送れるよう環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 舎生一人一人が安心して安全な寄宿舎生活を送れるよう、生活環境と学習環境を整備する。 定期的な安全点検を実施するとともに、舎内外の清掃及び整理整頓を徹底する。 	①	B	
幼稚部	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の個々の発達や特性に応じた保育に努め、基礎的な生活習慣や態度を育て、心身の健康を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の保育の様子や発達検査等をとおして、幼児の実態を把握し、医療・教育等の関係機関との連携に努めながら個に応じた保育の充実を図る。 	①②③④	B	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者研修会や親子給食を実施したことで、支援内容について保護者と共通理解を図ることができた。 ●関係機関や研修等から得た情報を共通理解し保育に活かすことが必要である。 ◇様々な経験を積むことができるよう年間指導計画の見直しを行う。
	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での育児充実を図るため、保護者の支援に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の願いを受け止め、適切な支援ができるよう家庭との連携を密にするとともに、幼児の発達や保育に関する研修に努める。 	①②	A	
	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心な保育環境の設定や体験活動の充実にも努め、自主性や自律性を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児が安心して主体的に活動ができるように、幼稚部内の整理整頓を常に心掛け、安全に配慮した保育環境の整備に取り組む。 幼児が身近な人やものに対する興味関心を高め、様々な経験を積むことができるよう、集団遊びの機会を意図的に設けるとともに、本物に直接触れる場面を多く設定する。 	①②③④	B	
	<p><健康></p> <ul style="list-style-type: none"> 体を十分に動かしたり、食に対する関心を高めたりしながら、健康な心と体を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことの喜びと自分でできる充実感を養うために、運動遊びを継続して取り入れるとともに、いろいろな食材に触れたり味わったりすることができるよう保育活動を工夫する。 	①②③④	A	
	<ul style="list-style-type: none"> 生活に必要な身の回りのことを、自分でしようとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 着替え・食事・排泄等の支援を個に応じてスモールステップで毎日繰り返し行うとともに、自ら考え動けるように教室環境を整備する。 	①②④	B	
	<p><人間関係></p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な人や友達と楽しく生活しながら関わりを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心して人と関わりがもてるように、幼児の気持ちを十分に受け入れた関わり方をするとともに、交流保育やごっこ遊び等の場面では、他者とやりとりをする機会を多く設定する。 	①③	B	
				B	<ul style="list-style-type: none"> ○運動遊びや戸外での遊具遊び散歩の機会を多く設けたことで、体の動かし方や体力が身に付いた。 ◇個々の実態に合った教材・教具が準備できるよう研修に努める。
				B	<ul style="list-style-type: none"> ○近隣幼稚園との交流活動では一緒に歩く、順番を待つ等、集団活動の機会を積極的に設けることができた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活における望ましい習慣や態度の基礎を築く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・約束やきまりに気付くことができるよう、生活や遊びの中で友達と同じ物を共有して使ったり、順番を守ったりする機会を設ける。 	③④	B	<ul style="list-style-type: none"> ●幼児同士の関わりにつながるよう保育内容の工夫が必要である。
	<p><環境></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然と触れ合う中で、身近な環境への興味・関心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節に応じた行事や散歩・栽培・生き物等、身近な自然環境に自分から関わるができるよう、戸外遊びや季節毎の体験活動の場を充実させる。 	②③④	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ふれあい動物園での体験やごっこ遊び等とおして、動物への関心を高めることができた。 ○環境設定を工夫したことで、幼児が自分から事物に触れる場面が増えてきた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・保有する感覚を活用して、周囲の状況を把握する力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の周りの環境に関心を持ち、状況を捉える力を育むことができるよう、触ったり聴いたりしてわかる教材・教具を用意するなどして保育環境を整える。 	①②④	B	
	<p><言葉></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを言葉や身振りで表現したり、人の話を聞いたりして伝え合う喜びが味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じた言葉で話しかけたり、何かを伝えようとしている時には十分に受け止めて、思いを共有したりする。 	③④	A	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児の表出を受け止め、気持ちに寄り添った言葉かけをしたことで、幼児が他者を意識する場面が増え、自ら話しかける姿が見られるようになった。 ◇体験と言葉が結びつくよう、繰り返しの指導を徹底する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・体験を通した言葉の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験が言葉と結びつくよう、身近なものに触ったり動作をしたりする際に、状況を説明する言葉を添える。 	②③④	B	
	<p><表現></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で様々な体験を通して、豊かな感性を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音・形・手触り・匂い・味等に気付き、イメージを豊かにできるよう、本物に触れる実体験を重視した保育活動を取り入れる。 	②③④	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ごっこ遊びでは、実物を用いて実体験をする機会を積極的に設けることができた。 ◇様々な事物を用意し、触察力の向上につなげる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたことを自分なりの方法で表現して楽しむことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな素材に触れて遊んだり、作ったり、歌ったりすることができるよう、様々な素材の教材を用意し、環境を整える。 	②③④	B	
小学部	<ul style="list-style-type: none"> ・学年及び発達段階に応じた基本的な生活・学習習慣を身につけ、自主的・主体的に行動できる児童を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の障害の程度や特性を的確に捉えながら、課題解決に向けた目標を設定することで、自信や意欲の向上を促す。 ・保護者と課題及び目標を確認し合い、学校と家庭が同じ意識で児童の支援、指導にあたるよう、面談や情報交換の場を充実させる。 	①②③④	A	<ul style="list-style-type: none"> ○朝の会を小学部全員で行うようにした。 ○中休みに全員がプレイルームに集まり活動する曜日を設定した。 ○学部会、保護者面談などで情報交換の充実が図れた。 ●少人数化により多様性の育成が難しい。 ◇学習集団の再編成。 ◇教師の専門性向上。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に興味や関心を抱き、知識や技能を向上させようとする意欲を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主要教科の中でも、国語、算数の指導に重点を置き、児童の学び方を把握しながら「読み、書き」「計算、思考」力の向上を図る。 ・児童が、自分の考えや思いを自ら表現・表出する場を意図的に設定した授業づくりに努める。 	②③	B	
	<ul style="list-style-type: none"> ・他者とかかわる活動を通して、協力し合う心を養い、協働しながら安全に生活する態度を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なあいさつや返事など、相手を意識したコミュニケーションの充実を図り、相手を思いやる豊かな心の育成に努める。 ・学習の中に体験的な活動を効果的に取り入れたり、「交流及び共同学習」などの機会を活用したりして、自分で考え、行動する場を設定する。 	③④	B	
一般学級	<p><1年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の基礎的な内容を学習するとともに、コミュニケーション能力を高め、友だち等とのコミュニケーションを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害特性に応じた学習方法を工夫し、体験的な活動を取り入れる。 ・安心して自分の思いを表現できる場づくりや雰囲気づくりに努める。 	①②④	B	<ul style="list-style-type: none"> ○体験的学習の設定。 ●学年一人学級での多様性の育成。 ◇学習グループの再編成。
	<p><4年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着を図るとともに、友だちとの関わりを深め、 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習内容の振り返りやアセスメント、単元テスト等を行い、児童の実態把握に努め、児童の意欲を引き出す授業を展開する。 ・友だちと関わる楽しさを味わい、言葉を使ってやり取りする場 	②③④	B	<ul style="list-style-type: none"> ○アセスメントを実施し、児童に合わせた学習を行い、基礎学力の定着を図ることができた。 ○自分から友だちを遊びに誘う姿が見られるよう

	コミュニケーションの幅を広げる。	面や機会を設定する。				になった。 ●欠席が多く、学習を積み重ねることが難しかった。
	< 5年 > ・基礎学力の向上を図るとともに、自ら考え行動する力を育てる。	・単元テストの実施と見直しを徹底するとともに、家庭学習の見直しを自分で行うことで、自身の課題に気づけるようにする。 ・整理整頓等の手順をチェックリストとして視覚化することで、すべきことを自ら考え行動することができるようにする。	②③	B	B	○家庭学習を実態に応じて計画することで主体的に取り組めるようになった。 ●整理整頓した状態を維持することが課題。 ◇定期的に整理整頓を行う。
	< 6年 > ・基礎学力の向上を図るとともに、見通しをもって自ら行動する力を育む。	・単元テストの見直しを徹底するとともに、家庭学習では毎日の宿題の他に長期的な目標を設定することで、計画を立てて学習に取り組めるようにする。 ・月毎、週毎に行事をメモする時間を設けることで、長期的な見通しをもって自ら考えて行動できるようにする。	②③④	B	B	○長期的な目標に基づいて、計画的に家庭学習や単元テストに取り組むことができた。
重複学級	< 1組 > ・一人一人の発達課題に即した基本的な生活習慣の確立や人とかかわる力、学習に向かう意欲を育てる。 ・日常生活上課題となる知識及び技能を把握し、それらを克服しようとする姿勢と態度を育てる。	・個々の発達段階に応じた支援、教材教具の活用、安心して活動に取り組める環境づくりを行う。 ・これから学習を重ねていく必要のある内容、すでに達成している内容を適宜評価し、支援内容を修正する。 ・個々の実態を的確にとらえ、生活上課題となっている事柄を明確にしながらか学習を進めることで、課題を意識しながら生活できるような環境を設定する。 ・学校生活を安心して過ごすため、心理的な安定が図れるような計画・実践を行えるようにする。	②③④	B	B	○担当間で随時情報交換を行ったことで、その都度の状況を把握することができ、それを生活・学習環境に般化できた。 ●集団での学習で、いかに個々の実態に応じた目標や内容の設定ができるかが課題。 ◇担当間での情報交換を継続し授業構成や支援の仕方等を工夫する。
中学部	・基礎学力を基盤とした、自ら学ぼうとする意欲や課題解決能力の育成を目指す。	・生徒の実態に即した指導計画を作成し、読み、書き、触察等を含む基礎学力の定着、向上と、それらを活用する力を身に付けることを目指し、各教科において生徒の実態に応じた体験的な活動や、効果的に ICT や資料を活用した指導を行う。	②③	B	B	○中学部段階における段階的な進路指導の計画を見直し、職場見学や職場体験について整理を行い実施することができた。 ●他教科間の連携を図ることにより生徒の実態把握に努め学習活動の充実を図りたい。 ◇オンライン等を活用して、他校との交流や合同授業を継続できると良い。
	・仲間や相手との対話を通して、相手を尊重し、よりよい関係を築こうとする態度を育む。	・話し合いや協働することを通して、活躍できる場面や自発的・自治的な活動の機会を積極的にづくり、他者と自己の違いやよさに気付くことができるような場を設定する。	①②③④	B		
	・障害に基づく課題を主体的に改善・克服し、社会生活に必要な知識や技能、態度を育てる。	・生徒の進路や望ましい社会生活を想定し、障害の状態や目標、課題について適切な実態把握と、担当する教員が定期的に情報共有と専門性の向上に努め、生徒の自己理解や進路への意識につながるような指導の計画と充実を図る。	②③④	A		
一般学級	< 1年 > ・意欲的に学習に臨み、基礎学力の定着を図る。	・各教科の基本事項の定着を図るとともに、自立活動と連動させながら中学部段階に応じた、読む、書く、触察する力を養うことができるように指導を行う。	②③	B	B	○全教科において点字盤での学習に移行し点字の技能を高めるとともに、触察の機会を多く取り入れながら、基礎的な内容の知識理解を深めることができた。 ○オンラインでの学校間交流や地域交流において様々な人の話を聞き、新たに得た知識を含めて交流の感想を発表することができた。 ●◇引き続き他者との対話の機会を積極的に取り入れ、考えを広げ深めていくとともに、自分の意見を伝えることに慣れることができるようにする。
	・中学生としての自覚をもち、社会性や協調性を高める。	・キャリアパスポートを活用したり、他学年との合同授業などを行い、他者と対話することで自分の考えを広めたり、深めたりすることが出来るような場面を設定する。	①②③④	B		
	< 2年 >	・ICT や資料等を効果的に活用することで、学習の基礎事項の定着				

	<ul style="list-style-type: none"> 課題をもって学習に臨む態度を育て、基礎学力の向上を図る。 	と、資料を読み取る力や自分の考えを表現する力を養うことができるように指導を行う。	②③	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 臨む態度を育てることができた。 ○自己の長所短所と向き合い、将来を見据えた自立につながる課題に取り組むことができた。 ●身に付けた知識や技能の般化が課題である。 ◇各教科・領域の学習と連携して取り組む。生徒が意識を継続して取り組むことができる環境を設定する。
	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解を深め、将来に向けた自立のための基礎を培う。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポートや職場体験などを活用して、自己の長所短所を理解したり、将来の社会参加に向けて必要な学習を行ったことで、進路選択の基礎を培うようにする。 	①②③④	A		
	<p><3年></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分で苦手分野を把握するとともに基礎学力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科においてこれまでの学習を再確認し、学習課題を精選した上で生徒の実態に即した指導を行う。 自主学习で自分の学習課題を見つけられるよう、学習計画を立てる指導を行う。 	②③	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ○受検に向けて計画的に学習に取り組み、自ら苦手分野を見つけて解決することができた。 ○将来自分が就きたい仕事について調べ学習を行う中で、必要な技能を具体的に見つけていくことができた。
	<ul style="list-style-type: none"> 将来を見据え、自分の進路について考え、必要な能力を培う。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポートを活用して、自己の長所短所や特技を確認し、進路に関する情報をもとに、自分に必要な能力を考える指導を行う。 	①②③④	B		
重複学級	<p><1組></p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭との連携を密にし、個に応じた生活、学習の充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の教育支援計画等を活用しながら、連携を密にし、将来の進路や生活を見据えた生活指導及び学習指導をスモールステップで段階的に行う。 	②③④	B		<ul style="list-style-type: none"> ○年度初めに教育支援計画の目標や生徒の実態保護者と本人の願いを基に各教科領域で取り扱う内容や目標を表した資料を作成し、担当教員と共通の認識を図って指導に当たるようにした。保護者と密に連携をとる中で生じた事項や新たな目的が発生した際には、各担当へ協力を求めて指導体制を整えた。 ●◇高等部からの進路指導に備え、現場実習の状況や、実習先の情報から面談などの際に生徒の実態に合った実習先の選択肢を一緒に作っていくようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> 将来の進路を見据えた身辺自立のための態度と技能を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への情報提供を行い、自立活動に関する目標と指導の手立てを適切に策定し、各教科領域の教員が共通理解のもとに一貫した指導体制をとる。 	①②③④	B	B	
高等部 本科 普通科	<ul style="list-style-type: none"> 個々の課題を明確にし、学校生活や学業に意欲的に取り組む態度を育てる。 将来の社会生活を見通し、自主性や協調性を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ケース会、学部会、普通科会等で生徒の情報を共有し、個々の学びの特性や課題の明確化を図ることで生徒自身に目的意識を持たせ、実態に応じた課題への解決意欲につなげる。 進路に関する活動等を利用して、卒業後の生活に向けた身辺自立面、作業能力面、社会性及び対人関係面等の課題を自覚し、解決に向け努力する姿勢を養う。 	②③④	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が課題解決のための方策を日常的に共有することで、意欲的に活動に取り組む態度の育成を図った。
			②③④	B		
一般学級	<p><1年></p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上に努めるとともに、自分の適性を知り、将来の進路選択に生かそうとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標を明確にしたわかりやすい授業に努め、学習習慣の定着、基礎学力の向上を図るとともに、外部テスト等で客観的評価への理解を促す。 個々のニーズに応じた進路に関する情報提供を行う。 	①②	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○実力テスト、外部模試を実施した。また外部模試の成績表やその他資料を基に面談を行い、進路に関する情報提供を行った。 ●進路に関する情報提供の他、生徒自身が主体的に調べる活動を行い、進路をより明確にしていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動全般を通して、自主性、自律性を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 校外外での集団活動及び様々な体験学習を意図的に周知したり、計画的に実施したりして、行動力や判断力の向上に努める。 	②③④	B		<ul style="list-style-type: none"> ○就労体験や学校間交流を実施して、他者との関わり中で行動力や判断力を高める機会を設けた。
	<p><2年></p> <ul style="list-style-type: none"> 教育活動全般を通して、確かな学力や広い視野、社会性を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の予習復習を行うことで、学習内容の定着を図るとともに、視野を広めたり社会性を養ったりできるようボランティア活動や体験学習、集団活動（課外活動）の充実に努める。 	②③	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●進路を明確にし、それに向けた活動を行う。

	<ul style="list-style-type: none"> 自分の障害や適性を理解し、卒業後の進路選択ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題を知り、自立活動で課題解決に取り組むとともに、進路に関する活動を通して自己理解を深め、卒業後の進路について具体的に考えられるようにする。 	②③④	A		
	<p><3年></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の障害や適性を踏まえた進路選択をし、卒業後の具体的な生活に必要な力を身に付けられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路に応じて現場実習や外部テストを取り入れながら、社会自立に向けた自分自身の達成状況や新たな課題を理解するとともに、課題解決型の学習や体験、キャリアパスポートを活用した活動に取り組むようにする。 	②③④	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒それぞれ主体的に進路選択を行うことができた。 ●キャリアパスポートの活用がとりあえず埋める形になってしまい不十分であった
	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後に必要となる知識や技能、社会性を養い、自活能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路関連行事や学校生活で学んだことを横断的に振り返る場面を設定することで、学習内容について理解を深めたり、視野を広げたりできるようにする。 	②③④	A		
重複学級	<p><1組></p> <ul style="list-style-type: none"> 安全で安心な生活が送れるように自ら意識して生活できるようにする。 学習や生活に見通しを持ち、自主的に活動に取り組むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級での活動、課題学習や調べ学習、係活動等に取り組む中で、自ら考え、行動することへの関心を高め、自主的、主体的に活動することができるようにする。 	①②③④	B		
	<ul style="list-style-type: none"> 将来の進路を見据えた身辺自立のための態度と技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路についての課題や見通しについて保護者との連携を密にし、共通理解を図る。また、周囲の状況を的確に把握したり、周囲に合わせた行動を考えたりする判断力を養う。 作業学習や実習等を通して、日常生活及び社会生活に必要な知識、技能を身に付ける。 	②③④	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒からの質問があった際には、生徒と共に考えることで課題解決のための道筋を身に付けることができるようにした。 ●自らの行動を振り返り、日常生活や社会生活を送るうえで適切かを考えることが難しい。 ◇ソーシャルスキルトレーニング等も活用しつつ生活場面ごとに適切な行動を丁寧を示していく。
	<p><2組></p> <ul style="list-style-type: none"> 安全で安心な生活が送れるように、協力して生活できるようにする。 学習や生活に見通しを持ち、協力して活動に取り組むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級での活動、課題学習や調べ学習、係活動に取り組む中で、周囲と協力して考え行動することへの関心を高め、共同的な学びができるようにする。 	①②③④	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○お互いのことを配慮し協働して活動する場面も多くあった。 ○進路担当者や保護者、施設等と情報共有し、結果的に生徒が進路選択をすることができた。 ●各部署間の連絡が不十分で、共通の理解が足りないこともあった。 ◇担任間、部署間で情報が共有できているかの確認頻度を高く行う。
	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の進路を見据えた身辺自立のための態度と技能を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路についての課題解決や進路決定を、保護者との共通理解を図り、連携を密にしながら進める。また、生徒が自分の気持ちを言葉で適切に表現したり、体の調子に応じた行動を考えてとったりするような判断力が向上するよう支援する。 作業学習や現場実習等を通して身に付けた日常生活及び社会生活に必要な知識、技能を自分の生活に生かせるようにする 	②③④	B		
本科保健理療科	<ul style="list-style-type: none"> 理療・保健理療に関する専門的知識と技能の修得に努め、自らの問題を発見、解決できる力及び健康で円満な社会生活を営むことのできる人間性を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門的知識と技術の定着を図るため指導力の向上と授業の充実に努める。 進路を踏まえ、関係機関との連携に努める。 	②	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○夏季休業中に個に応じた内容の補習を実施し生徒が主体的に計画・立案し、実技練習を行うことができた。
	<p><2年></p> <ul style="list-style-type: none"> あん摩マッサージ指圧師に必要 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科担当者との連携を密にし、学習状況の把握及び情報の共有に努める。 	④	B		
			①	B		<ul style="list-style-type: none"> ○定期試験の結果を踏まえ、各授業担当者と情報交換を実施したことで、知識・技術の向上を図

	<p>な専門的知識と技術の修得を図る。</p> <p>・社会自立に必要な能力と態度を養う。</p>	<p>・実態に応じた自立活動の課題を設定し、主体的に取り組めるよう支援する。</p>	③④	B	<p>ることができた。</p> <p>○デジタイズ機器の活用を推進したことで、ノート整理や自主学習の方法が少しずつ身に付いてきた。</p> <p>◇知識の定着を目指し、生徒が主体的に学習に取り組めるよう支援する。</p>
専攻科 保健 理療科	<p>・理療・保健理療に関する専門的知識と技能の修得に努め、自らの問題を発見、解決できる力及び健康で円満な社会生活を営むことのできる人間性を育てる。</p>	<p>・専門的知識と技術の定着を図るため指導力の向上と授業の充実に努める。</p> <p>・進路を踏まえ、関係機関との連携に努める。</p>	②	B	<p>○生徒の実態に応じた視覚補助具やICTを活用した授業づくりができた。</p> <p>●生徒数の減少により、実技科目等の実施についてさらなる工夫が必要。</p>
			④	B	
	<p><1年></p> <p>・あん摩マッサージ指圧師に必要な基本的知識や技術の修得を図る。</p> <p>・社会生活に向けて施術者として必要なコミュニケーション能力の向上を図る。</p>	<p>・視覚補助具や電子教科書の活用を促すなど、学習環境の整備に努める。</p> <p>・各教科担当者との連携を密にし、学習状況の把握及び情報の共有に努める。</p> <p>・実態に応じた自立活動の課題を設定し、主体的に取り組めるよう支援する。</p>	①	B	<p>○視覚補助具や電子教科書を活用し、学習方法の確立を図ることができた。</p> <p>●生徒個々の課題に応じた自立活動の内容の設定。</p> <p>◇生徒が自分の課題を主体的に改善できるように支援の方法を工夫する。</p>
			③	B	
	<p><2年></p> <p>・あん摩マッサージ指圧師として必要な専門的知識と技能の習得に努める。</p> <p>・社会自立に必要な能力と態度を養う。</p>	<p>・各教科担当者との連携を図り、学習状況を把握し指導に活かす。</p> <p>・生徒の実態に応じた社会生活に関する課題を設定し、支援する。</p>	②	B	<p>○長期欠席等することなく学校生活に適應できた。</p> <p>●年度末の総合試験を控える科目が生じた。</p> <p>◇学習方法に関するより具体的な指導を行う。</p>
			③④	B	
専攻科 理療科	<p>・理療・保健理療に関する専門的知識と技能の修得に努め、自らの問題を発見、解決できる力及び健康で円満な社会生活を営むことのできる人間性を育てる。</p>	<p>・専門的知識と技術の定着を図るため、指導力の向上と授業の充実に努める。</p> <p>・進路を踏まえ、関係機関との連携に努める。</p>	②	B	<p>○校内研究をとおして指導法について教員間で研修し、授業に活かすことができた。</p> <p>○生徒の実態に応じた指導をすることで主体的に授業に取り組み、知識・技術の向上がみられた。</p>
			④	B	
	<p><1年></p> <p>・あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に必要な基礎的知識及び技術の向上に努める。</p> <p>・施術者として自己の健康管理に努めるとともに豊かな人間性と態度を養う。</p>	<p>・生徒の実態に応じてICT機器の活用や実技練習の場を設けることで主体的に学ぶ力を養う。</p> <p>・保健主事と連携し、自己の障害の状態や健康面への関心を高めることで、傷害への理解や自己管理能力の向上を図る。</p> <p>・面談等で他者とのやり取りや自己の発言を振り返ることで、コミュニケーション能力の向上に努める。</p>	②	A	<p>○パソコン及びプレクストークを活用した学習方法を確立し、知識の定着を図ることができた。</p> <p>○放課後等の時間を活用し、自主的に練習に取り組むことで実技力の向上に励む姿がみられた。</p> <p>●学習や学校生活の中で生じる様々なストレスへの対応方法を身に付ける必要がある。</p> <p>◇保健主事及び養護教諭との連携を図り、自己の健康状態を振り返り、必要な対応ができるよう指導を継続していく。</p>
			③	B	
	<p><2年></p> <p>・あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の臨床に必要な専門的知識と技術の定着を図る。</p>	<p>・各教科担当者と連携し、生徒自身が課題と向き合い、その解決に向け努力できるよう支援する。</p>	②	B	<p>○定期試験、模擬試験を通して自己の苦手分野を意識し、自主学習をしている。</p> <p>●実技の技術向上を意識した自主練習をすることで、更なる成長が見込める。</p> <p>○臨床実習に臨む意識や意欲が向上してきており</p>

<ul style="list-style-type: none"> 医療従事者としての態度と社会自立に向けた能力の育成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 臨床実習を中心とした各教科の指導の中で、医療従事者の心構えと自己管理能力の向上に努める。 	③④	B	患者の立場で施術する心構えを意識している。
<p><3年></p> <ul style="list-style-type: none"> 国家試験の合格を目指し、知識の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験、模擬試験で課題を明らかにし、各教科担当者と連携して課題を共有するとともに必要に応じて補習を計画する。 	②	B	B ○定期考査や模擬試験の結果から課題を抽出し計画的に補習等を行ったことで学力の定着につながった。 ○日々の臨床ノートや見学実習でのレポート作成等を通して、自身の目標や課題を確認し、より主体的に学習に向かう姿がみられた。 ●希望する進路に向かうための学力が十分とはいいがたい。 ◇十分な学力を身につけるには、もっと早い段階（1年次）から計画的に学習を進める必要があった。実態を把握し、生徒にあった学習習慣を早期に確立する必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> 希望する進路に向けて知識と技術を高め、医療従事者としての人間性を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内外の臨床実習、見学実習を通して必要な力を自覚し、社会性、人間性の育成に努める。 	③④	B	

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない